

2016年3月20, 21日 赤岳東稜 L谷内、鈴木

何年越しかでようやくのこと赤岳東稜の登攀にこぎつけることができました。想像していた以上に素晴らしい雪稜ルートでピッチグレードはそれ程ではないかもしれませんが泊まり装備を背負って自分たちでトレースをつけていくという経験が味わえるという意味で貴重なルートでありました。

3/21 快晴

AM5:55 茅野発-6:40 スキー場先の登山口に駐車。車2台停まっており1台はソロで我々に続いて東稜に入ると。もう1台はすでに出発したと。6:55 発。大門川左岸には先行者の足跡ありガッカリしながら歩いていくと途中からなくなり県界尾根に向かったのであろうか？いずれにせよ我々が本日の先頭となり一安心。最終堰堤を越えてから数ヶ所迷いやすい場所あるのであるが2年前の11月に東稜末端まで偵察を行っており問題なく進むことができ8:45 出合着。登攀具を身に着けデブリでしまった右俣に入り30ぐらいしたあたりから左手樹林帯に取り付くが結構もぐりしんどい登行となる。樹林を抜け視界が開けて11:10 第一岩峰基部着。右手の雪面から巻き上がるルートがあるようだがズボズボもぐるので却下とし正面左手草付きフェースにルートを求め2ピッチで稜上へ。右手が切れ落ちてすっきりとしたナイフリッジが第二岩峰まで続いており感激。「八ヶ岳で雪稜登攀が楽しめる唯一の尾根」との記述を目にしたことあるが素直にうなずける感じである。こんな美しいリッジに自分たちでトレースをつけることのできる喜びにひたりながら登行を続け第二岩峰に至る。ここは正面の岩場をさげ左手灌木混じりの斜面を40mトラバースの後、草付きルンゼを40m直登。その後真教寺尾根と合流しやさしい岩稜をフリーで進み14:30 竜頭峰着。ガッチシと完登の握手を交したのち夏道分岐点まで降り風を避けて大休止。下降は真教寺尾根としたが上部のいやらしさは二人とも経験済みでしかもノートレースなので慎重に下降し鎖場で1ピッチ懸垂を行ったあたりで下から単独者が登ってきてその後はありがたくトレースを使わせてもらう。ダケカンバ帯をすぎ樹林帯に入り始めの2530m小平坦切り開きにテンバを設ける(16時)。いろんな水分が身体のすみずみまでしみわたる幸せな一夜となりました。

3/21 くもり

AM4時起床-5:30 下山。賽ノ河原から大門川に下る登山路がつけられており助かる。7:50 駐車場帰着。9時に茅野に戻り縄文の湯の一番風呂で汗をながし山行を終えた。